

3月も下旬になり、花だよりも聞こえ始めました。年度末の忙しい中でもふと足を止めて春の訪れを感じたいですね。現在会員登録数 2,261 人さま。次号は4月20日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 79

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● ウェブサイト「マンガのひみつ大冒険！」公開

当財団では、インターネットでマンガについて知ったり、お気に入りのマンガを探したりできるサイト「マンガのひみつ大冒険！ おすすめのマンガがいっぱい!!」を開発、公開しました。

サイトは「マンガをさがす」「マンガってなに?」「おすすめはこれだ!ゲーム」の3部で構成されており、佐々木マキ先生の「怪盗スパンコール」をナビゲーターに、子どもも大人の方にも楽しく親しんでいただける内容になっています。ぜひご利用ください。(平成28年度子どもゆめ基金助成活動)

→ <http://manga.iiclo.jp/>

● 記念展示「マンガを楽しもう！」

上記のウェブサイト「マンガのひみつ大冒険！」の公開を記念して、サイトに掲載のマンガの中から国際児童文学館所蔵作品を展示します。紹介している作品の一部は、国際児童文学館内で読んでいただくことができます。

会 場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館 展示コーナー

期 間：4月1日(土)～6月28日(水) 午前9時～午後5時

休館／毎週月曜・第二木曜、6月6日(火)～9日(金) ・入館無料

主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館 /

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

● 「第33回 日産 童話と絵本のグランプリ」入賞作品決定

全国のアマチュア作家から寄せられた創作童話 2,177 編、絵本324 編、計 2,501 編の中から、入賞作品 38 編を決定しました。

・童話の部大賞『こめとぎゆうれいのよねこさん』えばたえり さん

・絵本の部大賞『ギュッ』ミフサマワカシヨ さん

上記の2作品は、後日、絵本として出版されます。
◇入賞作品展 3月28日(火)まで開催中
大阪府立中央図書館 国際児童文学館展示コーナー
開催日・時間は、上記館の開催日、時間に準じます / 入場無料
→ http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。
お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》この本読んだ? Yasuko's & Takeo's Talk

『晴れ着のゆくえ』 中川なをみ/著 文化出版局 2017年2月

対象年齢：中学生以上

あらすじ：1951年夏、5歳の千恵と祖父はむらさき草を育て、祖父はその草で布を絞り染めにし、祖母が晴れ着を縫ってくれた。その着物は祖母が茜で染めて縫った長襦袢とともに従妹の春子の元へ行き、イギリス人やフランス人などの手に渡って2013年、日本に戻る。

T：孫のために心をこめて手で染められ、縫われた着物が世界を旅するスケールの大きい物語です。大人向けの作品ですが、全7章中、2章は子どもが視点人物で、中学生以上なら充分楽しめる作品だと思います。

Y：私は特に冒頭の3章がおもしろかったです。祖父と育てた草が着物になったことを喜ぶ5歳の千恵の様子、千恵の着物に嫉妬し、後に千恵に譲ってもらった着物を手放さなければならない状況に追い込まれる春子、着物を縫い、春子のために長襦袢を作りながら、自分と夫との関係、春子の母である娘との関係に思いをめぐらすもの。布に色がしみこむように、それぞれの人物の心の揺れがじんわりと伝わってきました。

T：染料を作って染める過程も丁寧に書かれていて、現実味がありました。心を込めて作ることを感じます。

Y：そうして作られた着物の一枚は、イギリス人のアネットから友情の印としてスリランカ人のチャンドラに手渡され、チャンドラはスリランカの内戦に巻き込まれながら、着物を持ち続けることで正義のために戦います。もう一枚はアネットから恋人へと送られ、中国や日本の陶磁器の下に敷かれます。

T：思いを込めて作られたものが人を勇気づけ、人の心を癒す。民芸の心を描いているように思いました。

Y：各章で視点人物が違いますが、着物がつないでいるために、関わった人の思いが積み重なっていくような深さを感じました。そして、何といても装幀が美しい。1枚目のカバーは絞りの紫根染で、その下にもう1枚カバーがあって、茜の板締め模様の染めになっています。本が晴れ着を着

ているようです。

T：最後に千恵と春子が再会するという結末も円環構造になっていていいな
と思いました。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第19回「やまなし」

「死」から「生」へと流れる水

賢治の童話には、さまざまな死が描かれます。ここまで取り上げてきた作品
のなかでも、「グスコブドリの伝記」におけるブドリの死、「よだかの星」
のよだかの死、「なめとこ山の熊」の小十郎の死などがあります。前号（本
メルマガ NO.78 参照）では、狐の死という悲劇的な結末が衝撃的でした。他
にも、カンパネルラ、樵夫、穂吉など、多くの登場人物が死を迎えています。

『クラムボンは死んだよ。』

『クラムボンは殺されたよ。』

と繰り返される作品「やまなし」は、5月と12月の〈小さな谷川の底を写
した二枚の青い幻燈〉です。

5月、子蟹と同じ空間に存在する魚は、外界から侵入してきたもの（かわせ
み）によって、蟹たちの知らないあちらの世界へ連れ去られていきます。子
蟹はその恐怖感にとられますが、父によって〈大丈夫だ、安心しろ。おれ
たちはかまわないんだから〉と慰められます。

賢治の作品には、水に対する畏怖の感覚が認められると述べたのは、日置俊
次です（「宮沢賢治試論—『やまなし』をめぐって—」1998）。日置は、初期
の歌稿から既に、水が冥界につながるという賢治作品の特質があることを指
摘しました。例えば「銀河鉄道の夜」も、天上へと向かう銀河鉄道において、
ジョバンニが水難事故死した人と乗り合わせる物語です。

死を連れてくる水。水が死につながることに背景に、日置は賢治の幼少期の
原体験があるとし、賢治が生まれた年（1896年）に起こった明治三陸大津波、
その後たびたび発生した水の氾濫が見逃し得ない要素を持つとも述べていま
す。

しかし一方、「やまなし」では12月にやまなしが水中へ落ちてきて酒となり、
生の象徴となるだけでなく、5月では水が蟹を守る〈保護膜として機能〉
（日置）もしています。水が生を支える反転が、「やまなし」の大きな特徴
といえます。

自らを大海の底に棲む修羅と形容した賢治。〈空間を液層として捉える〉

（大塚常樹『宮沢賢治 心象の宇宙論』1993年）とも言われる賢治の空間認
識に照らして、賢治にとって水とはどのようなキーワードなのか、「やまな

し」を読むたびに考えさせられます。（ペ吉）
（本文の引用は、角川文庫版『ゼロ弾きのゴーシュ』によりました。）

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 79

その10 学校でのおはなし会（11）学校図書館、公共図書館の本を利用する

おはなし会で読んでもらったり紹介してもらったりした本をもう一度読みたいという子どもは多くいます。特に読むことに慣れていない低学年までの子どもは、読んでもらってストーリーを把握した上で、文字をたどりながら、自分のペースでゆっくり読みたい、絵をじっくり見ながら読みたいと思います。

そこで、おはなし会で読んだ本を後から手に取れるようにする工夫が必要であり、そのためには学校図書館、公共図書館との連携が欠かせません。

学校司書がいる場合には、あらかじめプログラムを連絡して本を用意してもらっておくと貸出返却がスムーズです。また、ボランティアが公共図書館で借りて来た本を学校図書館や教室にしばらく置いておいて学校図書館を通して返却してもらおうシステムができているところもあります。

学校司書と、子どもたちに読む本が重なってしまい、「昨日読んでもらった」などと子どもが言う時もあると聞きますので、プログラムの情報提供は欠かせません。何度も読んでもらうことで深まる本もありますが、数ある本と多様な興味関心のある子どもを考えると、いろいろな本に触れあう機会を作ることも大切です。

学校司書がない学校でも、できるだけ図書館の本を使い、こんなおもしろい本が学校図書館や公共図書館にあるということを伝えることができれば、子どもたちの図書館利用につながります。本を置いておけない場合は、リストを作成して配布するなどの工夫も考えられます。

おはなし会で大切なことは、読んでもらって終わりではなく、自分で読む楽しみにつなげることです。そのためには、子どもの身の回りに読みたいと思えるような本があることが重要です。公共図書館、学校図書館の協力が欠かせず、規則を理由にできないと断られることもあるかもしれませんが、規則（ルール）はあるべき姿のためにあるもので、必要があれば変えるべきだという信念を持って協力を依頼してください。

* 次号は「その10 学校でのおはなし会（12）」の予定です。
質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。（Y）

《4》 行って来ました！

グランフロント大阪 北館で4月2日まで開催されている「ピアトリクス・ポター生誕150周年 ピーターラビット展」に行ってきました。絵本の原画

やスケッチ、愛用品など、ほとんどが日本初公開の200点以上が展示されています。

展示は「プロローグ」、「1章 ピーターラビットの誕生」、「2章 絵本シリーズの世界」、「3章 ビアトリクス・ポターの人生」に分けられています。

ピーターラビット誕生のきっかけとなった絵手紙の直筆写しには、絵本でも印象的なマグレガーさんが熊手を持ってピーターを追いかけている場面の絵がありました。ピーターは擬人化された洋服を着たウサギですが、動きには本物の野生の動物を感じます。ポターは死んだ動物の骨格を知るために、湯で煮て、骨を部位ごとに分けて計測やスケッチをし、解剖学的な構造を熟知して描いていたという解説に納得しました。

シリーズの中でも『2ひきのわるいねずみのおはなし』が好きなので、ドールハウスやねずみがいたずらをしている場面の原画が見られたうえ、登場する人形のルシンダとジェインのモデルになったポター所有の人形が展示されていてうれしくなりました。

それぞれの原画を描いた頃のポターの状況も解説されています。絵本作家としてだけでなく、キャラクタービジネスの先駆者であったり、イギリス湖水地方の自然保護や農場経営に力を注いでいたり、しっかりと地に足をつけた生き方をした人であったということを知ることができました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 大阪国際児童文学館を語る会・考える会 in 名古屋

第1部 記念講演「学校図書館の未来と可能性」

講師：五十嵐絹子（学校図書館アドバイザー）

第2部 大阪府立中央図書館 国際児童文学館の紹介

第3部 トーク&トーク「ようこそ 学校図書館へ！子どもの読書を考える」

パネリスト：飯田 寿美（元小林聖心女子学院 専任司書教諭）

五十嵐絹子（学校図書館アドバイザー）

小幡 章子（皇學館大学教育学部 助教）

永田 郁子（長久手市中央図書館）

コーディネーター：土居 安子（当財団 総括専門員）

日時：3月26日（日）午前10時～午後4時

会場：愛知淑徳大学 星が丘キャンパス（名古屋市千種区）

参加費：有料 申込み：必要

主催：大阪国際児童文学館を育てる会／東海子どもの本ネットワーク

● 第27回箕面手づくり紙芝居コンクール 作品募集

募集期間：4月14日（金）～5月14日（日）必着

募集規定：アマチュアの手作り作品に限る、ほか

募集部門：・ジュニアの部（作者・画家・演者とも小学生・中学生の作品）

・一般の部A部門（当コンクール入賞経験者）

・一般の部B部門

主催：箕面市教育委員会／人と本を紡ぐ会

問合せ：箕面市立西南図書館「モモ」人と本を紡ぐ会事務局

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『晴れ着のゆくえ』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ N0.79プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想 をお書きのう え office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は4月10日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

和歌山へグルメ旅。昼に電車を降り、駅前のしらす丼に直行。生と釜揚げ、どちらも安くてうまいが、私は断然生派だ。夜は宿でクエ料理。幻の魚と称されても、初回ほどの感激は遠く…。

翌昼は、河口近くのかたたびれ感漂う食堂で白魚のおどり食い。水盤を泳ぎ回るシロウオを箸で追い、相客とキャッキョウ騒ぎながら、短い旬の味をかみしめる。やはり、満足はお金じゃない…。

白魚の 逃げる跳ねるを 箸で捕る (A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
